

## 3学期 始業式 あいさつ

おはようございます。

皆さんはこの冬休みをどのように過ごしましたか。

年末、年始にかけてバスケットやサッカー、ラグビーなど多くの全国大会が行われました。生徒の皆さんも、さまざまなメディアで観戦したことと思います。

また、正月2日から「東京一箱根駅伝」が行われました。「箱根駅伝」で4区を走り1位でタスキをつないだ、中央大学の白川陽太（しらかわ ひなた）選手を観ましたか？ 本校の卒業生、37期で皆さんの先輩です。私は、現地に応援に行けませんでした。テレビに写し出される白川君の快調な走りに感動しました。そして、白川君の姿と共に、テレビの下の方に、出身校「大塚・大阪」のテロップも映し出されました。大塚高校の名を全国に伝えてくれた、白川くんに、大きな元気と勇気、さらに、年の初めの最高のプレゼントをもらいました。

その中央大学は残念ながら5位に終わりました。皆さんも知っている通り、優勝は、青山学院大学です。

私はこの冬休みに、青山学院大学陸上競技部の原監督の奥さんで寮母でもある、原美穂さんの本を読みました。今日はその話をします。

2004年春、監督も初心者、寮母も初心者、そして学生も初心者、初心者だらけで寮生活が始まりました。最初は門限もなく、完全にフリーな状態でした。飲みに出かけて、午前2時ごろに帰ってくる学生もいました。そうやって夜遊びをして帰ってきた部員は、当然のことながら、翌朝の練習に遅刻します。間に合ったとしても、ぼーっとして身が入らないこともあります。美穂さんはさすがにこれではまずいのではないかなと思うようになりました。当時、「箱根駅伝」のすごさを知らない美穂さんの目にも、彼らのだらけた雰囲気は、「箱根駅伝」をめざす学生の生活には見えなかったそうです。これでは目標であった、「3年以内に箱根駅伝に出場する」なんて、とても無理なのではないかと考えます。部員たちも3年生を中心に「このままでは自分たちも箱根駅伝に出られない」とだんだん考えるようになってきました。それまでも彼らは「箱根に出たいか」と聞かれれば「出たい」と答えていました。

ただ、そのためにはどこまで真剣になるべきなのか、果たして自分たちの自由を犠牲にする勇気があるのか、部員達自身が量りかねていました。生活がいまひとつぴりっとしなかったのも、本気でめざすかどうかを決めかねていたからだと、美穂さんは分析しています。このままでは絶対に無理だ。そう気がついた部員たちは自発的に、今の生活を変えたいと言い出しました。彼らの心にやっと火が着きました。さらに厳しいルールが必要だという声が自然と部員から、わき上がりました。「箱根駅伝」に出られるならどんな努力でもしたい、それが必要なら厳しいルールも守りたい、と意識が変わったのです。なぜそうしたのかと言えば、青山学院大学に入った目的は、「箱根駅伝」に出場することだと改めて気づいたからです。

そして6時に寮の前に集合して朝練へ出発。夜は10時門限で、食事は一緒に食べる、部屋での飲酒や茶髪、ギャンブルは禁止といったルールが、監督と学生の合意の下で決まったのは、寮生活が始まって、ほぼ1年がたってからのでした。自分たちで決めたルールだからこそ、現在もしっかり守られているそうです。

では、皆さんに尋ねます。皆さんが大塚高校を選んだ理由は何ですが。改めて、思い出してください。部活動で近畿大会や全国大会出場を目標に選んだ人もいでしょう。今、その目標に真摯に向かっていますか。また、家から近いからという理由で大塚を選んだ人もいでしょう。それもありませんか。でも、近すぎて遅刻の回数が増えていませんか。そのような人はまず、この3学期、無遅刻を目標にしてください。達成できると、自然と次の目標に気づきます。それが自分を高めることに繋がります。

自分たちは、どんな部活にしたい、どんなクラスや学年にしたい、それらの想いを出し合って自分たちでルールを作る。それを守り切る。そうすることが、大塚高校全体の発展に繋がります。

3年生は、あと少しで大塚高校を旅立ちます。「立つ鳥跡を濁さず」という言葉を知っていますか。「立ち去るものはあとが見苦しくないようにすべきである」ということです。卒業したあと、「40期生色々あったけど、最後よく頑張ったなあ。良い生徒たちがったなあ。」と思ってもらえるような3学期にしてください。1・2年生も、大塚高校に入学した目的を思い出して、新2年、新3年につながる3学期にしてください。

以上で3学期始業式のあいさつを終わります。